

第6回(通算第12回)八大学工学部長会議 議事録

日時 平成29年9月29日(金) 9:25~12:05

場所 ホテル福岡ガーデンパレス 3F 宝満の間

出席者 (北大) 増田隆夫 工学部長、(東北大) 滝澤博胤 工学部長、(東大) 大久保達也 工学部長、(東工大) 岩附信行 工学院院长、(名大) 新美智秀 工学部長、(京大) 北村隆行 工学部長、(阪大) 田中敏宏 工学部長、(阪大) 狩野裕 基礎工学部長、(九大) 高松洋 工学部長

陪席者 (東大・工学系・情報理工学系事務部) 稲垣博明 事務部長、下大田真一 総務課長、角野広司 総務チーム係長、小間奈々子 総務チーム係員、(名大・工学部・工学研究科事務部) 大矢淳一 事務部長、城田正之 総務課長補佐、成田吉伸 総務係長、(京大・桂地区(工学研究科)事務部) 疋田覚 事務部長、渡邊正和 総務課長、長谷川敏之 教務課長、(阪大・工学研究科) 岩谷好和 総務課長、前原忠信 庶務係長、福地慎之佑 庶務係員、(九大・工学部等事務部) 出嶋敏弘 事務部長、小田正俊 総務課長、水野和彦 総務課長補佐、鶴岡洋介 庶務係長、松尾知実 庶務係員、宮本未来 庶務係員

事務局 石原 直 事務局長

注記 工学部長会議の回数は、一般社団法人として第6回、連合会として通算第12回となる。

議題

1. 報告事項

- (1) 前回議事録確認
- (2) 平成29年度第1回運営委員会報告
- (3) 文部科学省との意見交換会の開催報告(4回分)
- (4) EAJ人材育成委員会への参加報告(2回分)
- (5) 提言に関する産業界との意見交換(2回分)
- (6) 第5回日英工学教育ワークショップ実施報告

2. 協議事項

- (1) 平成29年度博士フォーラムの実施計画について
- (2) 平成29年度八大学からの提言について
- (3) 工学系教育改革への今後の対応について

3. その他

- (1) 今後の予定について

配布資料一覧

- | | |
|-----|----------------------------------------------|
| 資料1 | 第5回(通算第11回)八大学工学部長会議議事録(案) |
| 資料2 | 平成29年度第1回運営委員会議事録(案) |
| 資料3 | 文部科学省との意見交換の実施について(5/18, 7/10, 8/9, 9/28の4回) |
| 資料4 | EAJ人材育成委員会参加報告(6/9, 9/7の2回) |
| 資料5 | 八大学提言に関するJRIAとの意見交換会実施報告(5/16, 9/12の2回) |
| 資料6 | 第5回UK-Japanワークショップ実施報告 |

- 資料 7 平成 29 年度博士フォーラム実施計画（案）
- 資料 8 提言「工学系人材育成への企業の参画と支援（案）」
- 資料 9 「工学教育の在り方に関する検討」関連資料
- 資料 10 八大学工学系連合会の会長校・幹事校について（参考）

議 事 要 旨

開会の辞

定款施行細則第 4 条の 4 に従って八大学工学系連合会会長が議長となり、第 6 回八大学工学部長会議の開会に当たって新美議長（名古屋大学工学部長）より挨拶があった。

会議日程及び資料確認

事務局より会議日程の説明、及び配付資料の確認が行われた。

出席者紹介

新美議長より出席者の紹介があった。

1. 報告事項

(1) 前回議事録（案）確認（資料 1）

資料 1 により、今春 4 月 21 日に東京にて開催した第 5 回(通算第 11 回)八大学工学部長会議議事録(案)を確認の上、承認した。

(2) 平成 29 年度第 1 回運営委員会報告（資料 2）

新美議長から資料 2 に基づき、7 月 28 日に開催した平成 29 年度第 1 回運営委員会の議事の報告が行われ、本日のこれからの議論の参考にされたい旨、紹介があった。

(3) 文部科学省との意見交換会の開催報告（4 回分）（資料 3）

新美議長から資料 3 に基づき、本年 5 月 18 日、7 月 10 日、8 月 9 日、9 月 28 日に、文部科学省高等教育局専門教育課と八大学工学部長会議のメンバーで「大学における工学系教育改革」をテーマとして意見交換を行ったことが報告された。6 月に文部科学省が提示した「工学系教育改革」への対応については、後の協議事項(3)で議論することとした。

(4) EAJ 人材育成委員会への参加報告（2 回分）（資料 4）

新美議長から、本年 6 月 9 日開催の公益社団法人日本工学アカデミー(EAJ)人材育成委員会に八大学工学系連合会から 5 名の工学部長が参加し、八大学による提言「博士人材の確保とリーダー人材の育成について」（平成 27 年 5 月 13 日発表）等をテーマに意見交換を行ったことが報告された。続いて石原事務局長から資料 4 に基づき、討論内容の要旨について報告された。その後、「コース博士の 2 つのエクセレンス」、「社会との接点作り」、「リカレント教育との関係」、「八大学で考える博士人材像」、「産業界・社会への博士像提示の仕方」等について多様な議論が行われた。

(5) 提言に関する産業界との意見交換会（2 回分）（資料 5）

新美議長から資料 5 に基づいて、一般社団法人研究産業・産業技術振興協会(JRIA)との間で、5 月 16 日に提言「我が国の発展を支える優秀な留学生人材の育成と定着—海外人材獲得の大

競争時代へ向けてー」をテーマに、9月12日に提言「工学系人材育成への企業の参画と支援（案）」をテーマに意見交換を行ったこと、及びこれらの場での「八大学と産業界との間の博士の人材像のギャップや両者の役割の分担」等の議論が紹介された。また、阪大の田中工学部長から JRIA とは今後も具体的なテーマを設定して定期的に意見交換の場を設けることとなったとの報告があった。

(6) 第5回日英工学教育ワークショップ実施報告（資料6）

東工大・岩附学院長から資料6に基づき、本年9月7日～9日に英国グラスゴー大学にて実施された第5回日英工学教育ワークショップについて報告があった。また、次回（第6回）は、来年9月3日～5日の日程で九州大学において開催されるとの報告があった。加えて、八大学工学系連合会は協賛という形で引き続き開催を支援することを確認した。

2. 協議事項

(1) 平成29年度博士フォーラムの実施計画について（資料7）

東北大・滝澤工学部長（幹事校）から資料7に基づき、本年11月24日に東北大学青葉山東キャンパスで開催予定の博士フォーラムの実施計画が説明され、参加者の構成などについて議論した。加えて今回は文部科学省、経済産業省、JRIAにも参加の依頼を行う予定であること等について説明があった。なお、文部科学省等への参加の正式な依頼は八大学工学系連合会事務局から行うことを確認した。

(2) 平成29年度八大学からの提言について（資料8）

新美議長から資料8に基づき、9月12日のJRIAとの意見交換の内容も踏まえて作成した平成29年度の提言の素案について説明があり、提言の対象、構成、内容等について以下のとおり意見があった。

- ・最初に「そもそも Dr.とは何か」、「どう言う人材を育てるか」、「育成すべき人材像」を明記すべき。「課題に立ち向かう気概は Dr.論文で育成される」、「（産業と一緒にになった）ポケットを広げる教養教育が重要で、ここに社会・産業の協力が必要である」など。
- ・「就職活動の短期化」は別の要望活動に回す。（関連して、就活において研究内容のプレゼンさせるのは守秘義務に抵触するのでやめて欲しい。）
- ・博士にフォーカスしながら、「これからどんな人材が必要か」、「育成には何が必要か」をはっきりさせて議論をスタートし、高度工学人材に広げて議論してはどうか。
- ・企業に対しては「イノベータ人材の育成には博士が最も重要」と主張したい。
- ・「博士のイメージ作り」そのものに企業の協力をもらってはどうか。ただ、「共同提言」は「誰に向かっての提言か」が分りにくくなるので止める。
- ・提言の主題は「人材育成・教育」なので、「産学共同研究における人材育成」はあくまで「方法論」として書く。共同研究を博士育成にどう利用していくかを議論するのがよい。
- ・工学系人材の育成には「科学技術政策」に関する教育も必要では。
- ・要は、（共同研究費でなく）「産業界から教育に投資してもらおう」ことが主題。高等教育への投資を促す提言にしたい。キャッチフレーズは「大学が目指すモノ（高度工学人材育成）に投資を！」が良いのでは。

- ・人材育成のターゲットが短期は長期かによって提言の書き方が変わってくる。
- ・（長期的な視点の）教育への投資を議論する際の重要なポイントに「税制」がある。
- ・現状では企業の金は共同研究に入っている。その中で、企業からの特任の先生に副査になってもらって博士の指導に関わってもらい、長期インターンシップを提供する、企業の資金が RA 経費に回るなどの施策が走っている。
- ・東大の社会連携では、出資企業から教員を採れないので表向き「教育」を強くしてある。
- ・教育と RA が入れ子構造にならないようにうまく分けた方がよい。
- ・化学系で進めている企業群ファンドによる学生の経済的支援スキームの拡大を。

なお、新美議長から、本日の意見を参考に分科会を中心として文章化・図面化の作業を進め、12月を目途に提言の形式にまとめる計画なので、引き続き各工学部長に協力をお願いする旨の依頼があった。

(3) 工学系教育改革への今後の対応について（資料9）

新美議長から、前日の文部科学省との意見交換の様子と資料9の説明があり、工学系教育改革への八大学としての今後の対応について協議を行った。今回の改革内容は、文部科学省としては主要大学のみではなく全ての工学系部局を有する大学を対象としている（せざるを得ない）ため「総花的」となっている。八大学としては、本改革は各大学での実施可能性を考慮して取組可能なものを試行的に取り入れることができる「出来る規程」であり「規制緩和」であるとの解釈のもとで、各大学の事情に合わせて対応することとした。また、この対応方針を午後の会議の八大学の各研究科長等の出席者に伝えることを確認した。なお、午後の会議では、「詳細は文部科学省の講演の際に解説を受けられる」旨を伝えることも併せて確認した。

3. その他

(1) 今後の予定について（資料10）

新美議長から資料10を参考に、今後の幹事校の予定として、来年の春が東京大学、秋が大阪大学であることが紹介された。

- ・次回の常設会議について、幹事校の東大・三谷新領域創成科学研究科長に代わって東大・大久保工学部長から、来年4月20日（金）にKKRホテル東京にて開催予定である旨アナウンスがあった。
- ・次々回の常設会議について、幹事校の阪大・田中工学部長から、来年9月28日（金）にホテルメルパルク大阪にて開催予定である旨アナウンスがあった。

以上をもって第6回八大学工学部長会議を終了することを新美議長が宣言し、事務局長から、午後13時30分より第134回八大学工学関連研究科長等会議が開催される旨の案内があった。

以上